――― 新 収 品 紹 介 ―――

善財童子絵巻断簡 室町時代 紙本著色 33.7×50.7cm

ここにご紹介します作品は、最近当館が購入し今回の展観「仏教の美術」で初めて公開する「善財童子絵巻」の一断簡です。

善財童子絵巻は、「華厳五十五所絵巻」とも呼ばれ、華厳経の入法界品（にゅうほっかいぼん）という経典に見える善財童子の歴参の説話を描いたものです。その内容は、純真無垢な善財童子が、文殊菩薩の指示に従い、南方に向って、次々に五十五人の善知識（聖者のこと）を歴訪し、それぞれの善知識から一法門ずつを聴き、最後に普賢菩薩のもとに到って普賢法門を体得したという話です。善財童子の善知識歴参の比喩によって仏道修行の過程を述べたものです。

本断簡は、善財童子が南行して、五十二番目に南端の海岸国にある大荘厳園中の大楼閣（毘盧楼閣）において弥勒菩薩に会って教えを受けている場面が描かれています。斜めに大楼閣の門を配し、その上方には、雲上に乗って諸菩薩を率いる弥勒菩薩が、合掌する善財童子のところに降りて来る様子が、軽やかに、細く淡い墨線で描かれています。適所に朱、緑、青の淡い彩色が施されていて、清純な画趣をかもし出しています。また、胡粉の点描にて満開の桜を描いたり、薄い朱で菩薩の顔を表わしたりして、温かく親しみ深い作品にしています。画面の上部には色紙型を画き、その中に讃文を記しています。

日本におけるこの種の遺品では、東大寺所蔵の巻子本（鎌倉時代）が最も有名で、その一部は藤田美術館に、また断簡は諸家に分蔵されています。またこれと同系の別本に原家所蔵の断簡があります。東大寺本には、北宋の楊傑の作った讃文があり、中国の祖本によって描かれたものと思われます。大和文華館本は、東大寺本の弥勒図（団家旧蔵）と比較して、図様、讃文ともに異っており、日本で創作された新図様の善財童子絵巻と考えられます。構図や筆致にやや硬さが認められるので、製作年代は、降って室町時代のものかと思われます。

本図は、善財童子絵巻の別系統の一資料として貴重な作品といえましょう。

弥勒菩薩図（団家旧蔵）

季刊 美のたより No.26
昭和48年12月1日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.